

天文教育

2022

7

*Publications of the Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy
(PJSEPA)*



＜特集＞関東支部会報告

＜投稿＞福岡県星野村における天文学宇宙イベントの実施

＜報告＞第 30 回中国・四国地区天文教育研究会報告／

若手の天文〇〇を聞いてみよう！開催報告

＜その他＞2022 年度 代議員および会長候補・監事候補者選挙結果の

報告／2022 年日本天文教育普及研究会年会（第 4 報）ほか

一般社団法人 日本天文教育普及研究会

本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。
なお原稿の投稿は、編集部から依頼した場合を除き、原則として当会会員の方に限らせていただきます（共同執筆者に会員を含む場合はこの限りではありませんが、投稿は会員の方からお願ひいたします）。

1. **原著論文**：天文教育・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主な内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクト（要旨）には英文も付けてください（英文は審査通過後に追加也可）。
 2. **解説記事**：天文学や天文教育・普及に関する解説・紹介記事や、さまざまな天文教育や社会教育などの実践記事。分量は刷り上がりで6～10ページ程度。
 3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告など。分量は刷り上がりで2～4ページ程度。
 4. **書評**：天文学や天文教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで1～2ページ程度。
 5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで1ページ程度。
 6. **表紙の写真**：タイトルと400字以内の「表紙の言葉」とともにご投稿ください（写真のみでも構いません）。
 7. **情報コーナー（各種会合・イベントの告知など）**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただく場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日（奇数月下旬）にご留意ください。
- ・**締め切り**：1は随時受け付け、2～7は偶数月（発行の前月）15日です。投稿先は post@tenkyo.net です。
- ・本誌に掲載された記事（上記1～6および7の一部）は、当会Webサイトにてpdfファイルの形で一般に公開いたします。インターネットでの公開に差し障りのある場合は、ご投稿の際にその旨ご連絡ください。
- ・広告掲載を希望される方は事務局（jimu@tenkyo.net）までお申込みください。掲載料はB5判1ページ￥20,000-、半ページ￥12,000-、1/4ページ￥7,000-、チラシの折り込み￥20,000-です。

【編集委員会からのお願い】

『天文教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますよう宜しくお願ひいたします。

- ・原稿の投稿は、原則としてMicrosoft Wordファイルでお願いします。
- ・執筆用のテンプレートが当会Webサイト（<https://tenkyo.net/>）からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださいようお願ひします。執筆上の留意点なども記しています。
- ・充分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいただく場合もあります。
- ・提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。
- ・Word以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。
- ・原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記のアドレスへお願ひいたします。

投稿先・質問先 メールアドレス：post@tenkyo.net

表紙の言葉

森の中の天の川

2022年6月28日 23h02m, Canon EOS R5, Nikon AF-S24-70mm F2.8G ED(24mm, F=2.8), ISO10000, 15秒露出、撮影地：鍋倉山（長野県飯山市）

撮影・解説：大西浩次

異常に早い梅雨明け直後の暑い夜、涼を求めてブナの森の中へ入る。森の中はうっそうと茂ったブナの葉が空を覆い、星空が見えそうもない。そんな中、隙間から天頂へ飛び立つ白鳥を見つけた。天頂にはこと座のベガ（織り姫星）が輝いていた。天の川の対岸、アルタイル（彦星）は南に低いため、森の隙間から見ることができない。

ところで、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」の中で、ジョバンニが銀河鉄道に乗車する「銀河ステーション」は「はくちょう座」付近にあると言われている。ちょうど、天の川の中央付近を横切る暗黒星雲が、このはくちょう座付近よりはっきり見え始める。天の川がわ

し座、たて座、いて座へとたどり着くころには、はくちょう座付近から始まる暗黒星雲が、天の川を2つに分断するような大きな暗い帯として見える。宮沢賢治はこんな天の川の中の暗黒星雲の帯を線路と見たのだろう。さて、「銀河鉄道の夜」でははくちょう座を横断するまでに多くのエピソードを費やしている。という事は「銀河ステーション」は、はくちょう座の北の端、デネブ付近にあつたに違いない。ちょうど「北十字」の頭を作るデネブの北寄りに北アメリカ星雲がある。目では見えにくい水素輝線の天体の手前にある暗黒星雲がメキシコ湾の形を作っているのだが、天の川がはっきり見えるところでは、まさにその暗黒星雲が天の川に切れ込みを入れているように見える。森の中に強い風が吹き抜ける。強い風が吹くごとに、森は大きく揺れ星々が葉の間からちらちら見える。もう少し風が吹けば彦星も見るかもと思いつつ、ついに見ることはできなかった。